

Portraits of the Seasons: The World of Ono Chikkyo - Masterpieces from the Chikkyo Art Museum, Kasaioka



小野竹喬の世界
うつりゆく自然を描く

笠岡市立竹喬美術館名品展

The World of ONO, Chikkyo

会期 2026/9.5-10.12

9月5日(土)～9月23日(金) 9月25日(土)～10月12日(日)

開館時間 午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(ただし8月21日(金)および10月12日(日)は開館。9月24日(金)休館)

観覧料 一般:1,200(960)円/高校・大学生:65歳以上:900(720)円

主催 郡山市立美術館/特別協力 笠岡市立竹喬美術館/企画協力 青い森プロモーション

郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art

〒963-8005 福島県郡山市公園町字大目100-2
Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350
https://www.city.koriyama.lg.jp/tite/artmuseum/



笠岡市立竹喬美術館名品展

うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界

小野竹喬(1889-1979)は、岡山県笠岡市出身の日本画家です。1903年(明治36)に14歳で京都の竹内栖鳳に入門してから、1979年(昭和54)に89歳で亡くなるまでの75年間、日本の自然を描き続けました。

さまざまな表現に挑戦しながらも、一貫して季節の移ろいの中にある自然のささやかな表情を捉え続けました。とくに、晩冬から早春にかけての大地の装いや樹木の芽吹き、その萌しを、「自然の香り」と称して清澄に捉えています。また、戦後は夕焼けの空を題材として、時々刻々と変化する空や雲の様相を、心温まる色彩で柔和に表現しました。1976年(昭和51)には生涯にわたるさまざまな功績が評価され、文化勲章を受章。名実ともに近代を代表する日本画家となりました。

本展では、笠岡市立竹喬美術館が所蔵する名品の数々により、竹喬が生涯を通して追い求めた自然表現の精華をご紹介します。

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：鈴木えみこ、中山恵理

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail: art956k@bz04.plala.or.jp

◆本展の見どころ◆

- ❶ 日本画の新しい表現を模索した近代の巨匠。その画業を総覧
- ❷ 近年重要文化財に指定された《波切村》を展示(前期展示：9/5-9/23)
- ❸ 身近な日常や自然を描きとどめた素描 27 点を公開
- ❹ 竹喬晩年の代表作《奥の細道句抄絵》習作を公開

◆展示構成◆

第1章 竹内栖鳳塾での学び（1903-1909 年/14 歳～20 歳）

14 歳の頃、小野英吉は京都画壇の泰斗・竹内栖鳳の画塾に入ります。「竹橋」の雅号をもらって画家としてのスタートを切り、京都四条派の潤いのある筆法に西洋近代絵画の写実的な空間表現を融合した画風を学びました。



《洛外の山家》1906 年頃



《落照》1908 年

第2章 西欧近代絵画の受容（1910-1917 年/21 歳～28 歳）

1909 年、20 歳になった竹喬は、京都市立絵画専門学校(画専)別科に入学し、学友とともに研鑽を積みます。同じ頃、雑誌『白樺』が西洋美術の動向を伝え、竹喬は特にセザンヌの影響を強く受けました。さらに、同時代に活躍する今村紫紅らの新南画、富岡鉄斎の動向にも機敏に反応しながら、日本画の可能性を模索していきます。



《暮るる冬の日》1910 年



《島二作（早春・冬の丘）》1916 年

第3章 渡欧を経た、西洋から東洋への歩み（1918-1928 年/29 歳～39 歳）

1918 年、竹喬は文展から離脱し、画専時代の学友とともに国画創作協会を設立します。その第 1 回展に《波切村》、第 2 回展に《夏の五箇山》を出品するも、西洋画的な写実を日本画で追い求めることの難しさを感じたようです。1921 年の渡欧後は、むしろ東洋の古典絵画の見直すようになり、細緻な描線と淡彩による表現へと転じてゆきました。



重要文化財 《波切村》1918 年（展示期間：9/5-9/23）



《波濤》1927 年



《青海》1927 年

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：鈴木えみこ、中山恵理

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail: art956k@bz04.plala.or.jp

第4章 古典絵画の見直し、南画から大和絵へ（1929-1945年/40歳～56歳）

1929年に官展に復帰した竹喬は、文人画、そしてやまと絵へと関心を移していきます。次第に日本絵画の平面性を肯定的に捉えるようになり、簡略化された明快な画面構成と色彩を志向するようになりました。1939年の第3回新文展に出品した《清輝》では、おおらかな線描は残しつつ色面で立体感を表しています。これが画業の大きな転換点となり、戦後の静謐な中に温かみのある画風へとつながっていくのです。



《清輝(習作)》 1939年



《月》1944年

第5章 無心の境地から生まれる絵画を目指して（1946-1965年・57歳～76歳）

戦後、竹喬は京都市立美術専門学校教授に就任するとともに、帝国芸術院（のちの日本芸術院）会員に任命されました。この時期の竹喬は、身近な自然を単純化した造形と明快な色彩によって親密に捉え、象徴性を帯びた表現へと向かっていきます。竹喬の代表的な画題「茜空」もこの頃から数多く描かれるようになり、「色彩の画家」としての竹喬の印象をいっそう強めることとなりました。



《仲秋の月》1947年



《彩雲》1965年頃

第6章 至純な心の風景への旅（1966-1979年・77歳～89歳）

老齡となっても、竹喬は画風が固定化することを拒み、制作の上で絶えず「新鮮」ということを念じながら作品を制作しました。柔和で純粋な感性は、やがて至純な心の風景へと向かいます。1976年には晩年の代表作《奥の細道句抄絵》を発表。同年秋に文化勲章が授与されました。最晩年には水墨画にも挑戦し、1979年に89歳で死去するまで新たな創造の可能性を探究し続けました。



《野辺》1967年



《樹間の茜》1974年

※掲載の作品はすべて小野竹喬筆、笠岡市立竹喬美術館所蔵

◆関連イベント◆

■講演会 「竹喬が目指した芸術 —その言説と作品をめぐって—」（申込不要、入場無料）

日時：2026年9月5日（土） 14:00～

講師：上蘭四郎（笠岡市立竹喬美術館 元館長）

場所：多目的スタジオ

定員：70名（先着順・入場無料）

■笠岡市立竹喬美術館学芸員によるギャラリートーク（申込不要、要観覧券）

日時：2026年10月12日（月・祝） 14:00～

場所：企画展示室1階

講師：中原千穂（笠岡市立竹喬美術館学芸員）

■美術講座「おくのほそ道と小野竹喬」

日時：2026年9月20日（日） 14:00～

講師：当館学芸員

場所：多目的スタジオ

定員：70名（先着順）

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：鈴木えみこ、中山恵理

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail: art956k@bz04.plala.or.jp

■ギャラリートーク

日時：2026 年 9 月 22 日(火・祝) 14:00～

講師：当館学芸員

場所：企画展示室 1 階

定員：70 名（先着順）

◆展覧会基本情報◆

展覧会名：うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界

会 期：2026 年 9 月 5 日(土曜日)～10 月 12 日(月曜日・祝日)

時 間：9 時 30 分～17 時 00 分（展示室への入場は 16 時 30 分まで）

休 館 日：毎週月曜日（ただし 9 月 21 日[月・祝]および 10 月 12 日[月・祝]は開館、9 月 24 日(木)休館）

会 場：郡山市立美術館（〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2）

観 覧 料：一般 1,200(960)円 高大生・65 歳以上 900(720)円

* () 内は 20 名以上の団体料金

* 企画展観覧料で常設展もご覧いただけます

* 中学生以下の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主 催：郡山市立美術館

特別協力：笠岡市立竹喬美術館

企画協力：青幻舎プロモーション

[交通案内]

バス：JR 郡山駅前 5 番のりば「美術館経由東部ニュータウン」「斎藤経由三春」行き

「郡山市美術館」下車すぐ

乗用車：磐越道「郡山東 I.C.」より 20 分

駐車場 130 台

※最新情報は美術館ホームページでご確認ください。



【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：鈴木えみこ、中山恵理

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail: art956k@bz04.plala.or.jp

郡山市立美術館

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>



◆広報用画像◆

画像の使用をご希望の場合は、E-Mailにてお問い合わせください。

E-Mail: art956k@orange.ocn.ne.jp

【広報用画像貸出の注意事項】

- ・使用目的は本展のご紹介のみに限ります。
- ・使用後、画像データは速やかに破棄してください。画像データの保存および第三者への提供は禁止します。
- ・トリミング、部分使用、文字乗せ、色調変更、二次使用は禁止します。
- ・掲載する際は、各画像のキャプションを必ず記載してください。
- ・掲載紙は、学芸課担当者宛に1部ご送付をお願いします。

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：鈴木えみこ、中山恵理

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail: art956k@bz04.plala.or.jp